

質問に対する回答について  
工事名) 常磐自動車道 浪江工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	割掛対象表参考内訳書 仮設材運搬費 リース品は往復運搬、中古品は片道運搬 を見込んでいるのでしょうか、ご教示願 います。	割掛対象表参考内訳書に関する質問は受 付けておりません。 設計図書に基づき必要な費用を計上して ください。
2	割掛対象表参考内訳書 工事用道路維持 補修費 4t 散水車は日当たり運転の稼働率、運転 時間と軽油消費量をご教示願います。	割掛対象表参考内訳書に関する質問は受 付けておりません。 設計図書に基づき必要な費用を計上して ください。
3	数量明細書 (1/8) ページ 構造物掘削 のり面工 5,116.1m <sup>3</sup> の対象構造物をご教 示願います。また、設計業務成果品の 001 常磐自動車道 浪江地区道路詳細 設計 REPORT25 数量総括表 3/17 の函渠 工 5,892.8m <sup>3</sup> も設計数量と整合していな いように思われます、どちらが正でし ょうかご教示願います。	数量明細書 6 構造物掘削 普通部 の り面工 5,116.1m <sup>3</sup> は補強土壁工の構造物 掘削となります。 また、函渠工の構造物掘削数量は、設計 図書が正です。 なお、溝渠工の構造物掘削数量に不備が ありましたので訂正いたします。 (4月4日掲載予定)
4	採用された設計単価月をお教えてください。	積算に関する質問についてはお答えでき ません。貴社の計画に基づき必要な費用 を計上してください。
5	設計と実際の施工方法・施工時間にかい離 が生じたため、工期内に工事が完了できな い場合は、別途工期延伸はして頂けるので しょうか。ご教授願います。	受注者の責めに帰することができない事 由により、工期内に工事を完成すること ができない場合は、別途工期延伸の協議 対象とします。
6	特記仕様書 27-24 工事用進入路整備工 において 大型土のう撤去後の土のう袋処分も「工事 用進入路整備工」に含まれていると考えて よろしいでしょうか。	工事用進入路整備工には、土のう袋の処 分は含んでおりません。 なお、処分が必要となった場合は、別途 協議事項とお考え下さい。

7	<p>特記仕様書 13-1 支給材料</p> <p>特記仕様書 27-23 (4) 仮設防護柵工 防錆処理において</p> <p>仮設防護柵の防錆処理について標準仕様書 15-3-4 によるものと記載があります。また使用材は支給材料となっています。</p> <p>防錆処理の対象資材は支給材全量でしょうか、あるいは損傷に応じた一部でしょうかご教示ください。一部の場合は割合等数量が判明するものを明示してください。</p>	<p>支給材料については防錆処理済みであるため、防錆処理は不要です。</p> <p>なお、交付図書の一部に不備がありましたので訂正致します。</p> <p>(4月4日掲載予定)</p>
8	<p>特記仕様書 27-23 (4) 仮設防護柵工 防錆処理において</p> <p>防錆処理は仮置場である浪江地区土取場での施工が可能でしょうか。</p>	<p>番号4の回答事項の通りです。</p>
9	<p>特記仕様書 27-22 階段工</p> <p>設計図(本線) 66~69//84 階段工 において</p> <p>手摺構造が特記仕様書(基礎くい)と図面(階段取付)では違いますが図面を正と考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>手摺構造については図面が正となります。</p> <p>交付図書の一部に不備がありましたので訂正致します。</p> <p>(4月4日掲載予定)</p>
10	<p>図面 3 / 4 諸戸川橋下部工 62~65/67</p> <p>補強土壁工 GH 計画図</p> <p>特記仕様書 27-19 補強土壁工 において</p> <p>補強土壁工 G・H はアダムウォールを適用とありますが、図面はジオグリットを用いた補強土壁でありコンクリート外壁と鋼製壁面内壁の二重構造であるアダムウォールではないと見られます。図面を正として考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>補強土壁 G 及び H の構造については図面が正となります。</p> <p>交付図書の一部に不備がありましたので訂正致します。</p> <p>(4月4日掲載予定)</p>

11	<p>図面 3 / 4 諸戸川橋下部工 62～63/67 補強土壁工 G 計画図</p> <p>数量表明細表、金抜設計書 において 補強土壁工 G の数量は図面では壁面材 56.9m<sup>2</sup> 数量表明細表、金抜設計書 では 単価数量 106.2m<sup>2</sup> となっております。 どちらを正とすればいいでしょうか。ある いは 単価数量 106.2m<sup>2</sup> 当たり壁面材 56.9m<sup>2</sup> と捉えればよろしいでしょうか。</p>	<p>補強土壁工 G の数量は 56.9 m<sup>2</sup> が正となり ます。</p> <p>交付図書の一部に不備がありましたので 訂正致します。</p> <p>(4月4日掲載予定)</p>
12	<p>特記仕様書 27-14 構造物取壊し 設計図 1/4 本線 73～78/84 構造物 取壊し工平面図数量表において のり面吹付取壊し TypeA、TypeB の吹付厚 が特記仕様書と設計図面では違っています (特記 TypeA t=5cm TypeB t=10cm 図面 TypeA t=10cm TypeB t=5cm) 図面を正と考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>のり面吹付取り壊しについて TypeA が t=10cm、TypeB が t=5cm です。</p> <p>交付図書の一部に不備がありましたので 訂正致します。</p> <p>(4月4日掲載予定)</p>
13	<p>数量総括表 6/8、設計図面 3/4 諸戸川橋下部 工 1/67 下部工総括表において 鉄筋 Y の数量に相違があります。(数量総 括表 138.48t 図面総括表 138.328t) 設計図面を正と考えてよろしいでしょ うか。</p>	<p>鉄筋 Y の数量には、スペーサーの数量を 含んだ数量となります。</p> <p>交付図書の一部に不備がありましたので 訂正いたします。</p> <p>(4月4日掲載予定)</p>